

1 研究の趣旨

近年、スマートフォンやゲーム機、音楽プレーヤーなどの携帯型情報端末の普及により、子どもたちの間でもSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）や無料通話、オンラインゲーム等の利用者が増加している。それに伴い、ネット依存やゲーム依存などの長時間利用による生活習慣の乱れや、SNSによるトラブル、ネットいじめなど、課題も多くなってきている。生徒の情報モラル習得の必要性・重要性が、時代の流れとともに増してきており、生徒の実態に合った情報モラル教育を模索したいと考えた。

一年次の研究では、授業の題材として、最近のインターネットトラブルや体験型教材を設定したことで、情報モラルの重要性をより身近な問題として実感させ、生徒の興味・関心を高めることができた。また、生徒に危機意識を持たせるためにロールプレイを行ったり、生徒が主体的に考えられるようにKJ法やブレインストーミングの手法を活用して協議させたりすることで、生徒自身の判断力・責任感・自制心などの情報活用能力を育てることができた。しかし、情報モラル教育を指導する上で、生徒の実態や指導後の成果を測る指標がなく、生徒の情報モラルリテラシーを客観的に判断して指導に生かすことは難しいと感じた。

そこで二年次においては、生徒の実態に合わせた情報モラルの指導を行い、生徒の情報モラルリテラシーの向上を客観的に測るため、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

情報モラルの指導において、ILASテストで生徒の実態を把握・分析することで課題を明確にし、その課題に合わせた授業を展開すれば、生徒のインターネット・リテラシーが向上するだろう。

2 研究の概要

(1) ILASの活用

① ILASとは

ILAS（アイラス、Internet Literacy Assessment indicator for Students／青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標）とは、義務教育修了時まで全ての青少年に身に付けて欲しい能力を可視化するために、2012年に総務省が開発した指標である。本研究では、安心ネットづくり促進協議会が作成した簡易的なILASテストを活用した。

② ILASを活用した研究の流れ

- ILASテストを実施し、集計・分析して生徒の実態を把握する。
- 生徒の実態から課題を明確にし、それを克服するための授業テーマを設定する。
- 最近のインターネットトラブルや体験型教材を題材として、テーマに沿った授業を実施する。
- 授業後に再度ILASテストを実施し、生徒のインターネット・リテラシーの評価を行う。

(2) 授業実践の視点

生徒に、自分自身で判断して行動できる力と態度を育てさせるために、以下の3つの視点に基づいて効果を検証した。

- ① コンピュータを使ったトラブルの疑似体験やビデオ教材視聴等の学習活動を通して、生徒の興味・関心の喚起を図り、トラブルに遭遇した際に解決に向けて行動できる態度を育てる。
- ② 最近のインターネットトラブル事例を通して、インターネットの特性や仕組みなど、基本的な知識の習得・定着を図り、危険回避に対する知恵と態度を育てる。
- ③ 授業での話し合い活動やワークショップでのグループ発表等では、言語活動を取り入れることで思考の深化を図る。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① ILASに従って集計・分析を行い、生徒の実態や課題を把握することで、ポイントを絞った授業を行うことができた。
- ② ILASテストを授業の前後で行うことで、生徒のインターネット・リテラシーの向上と、授業の成果を把握することができた。

(2) 今後の課題

生徒への情報モラル教育は喫緊の課題であるから、各校種のすべての先生が授業で行えることが望ましい。本研究で実施した指導案や教材、ワークシート等をまとめて、教材の共有化を図る。